



Sun Java™ Web Infrastructure Suite



動的なWebアプリケーションをシンプルかつセキュアに構築



Sun Java Web Infrastructure Suiteを利用すれば、企業は新規 / 既存のWebアプリケーションやサービスに対し、セキュリティ / アクセス制御 / 監査機能を速やかに実装することが可能になります。

Sun Java Web Infrastructure Suiteは、既存のWeb環境との高い親和性を持った、包括的な検証済みのソリューションで、Webアプリケーションに対する強力なアクセス制御を実現し、Web基盤に対する悪意を持ったアタックからの保護を可能にします。また、実績ある開発ツールを提供することによって、迅速なWebサービス開発を支援し、速やかなROIの実現を支援します。この包括的で実践的なアプローチが、SOA(Service Oriented Architecture)の実現を支援します。

Highlights

- シンプル
実績のあるツールを利用し、動的なコンテンツを更に容易に実装 / 開発が可能
- セキュリティの向上
ビジネス上の機密データやWebサイトのインテグリティを、悪意を持ったアタックから保護
- アクセス管理
Webサービスが提供する全てのWeb資産に対し、セキュアで一元化されたアクセス制御管理を提供
- 法令遵守のために必要なコンプライアンス
セキュリティ / プライバシー / インテグリティなど主要な要件の確立を支援
- 迅速なROI
迅速にWebサービスを実装でき、SOA(Service Oriented Architecture)による速やかなROIを期待可能

Sun Java™ Web Infrastructure Suiteは、バリュー・チェーンに含まれるITユーザとビジネス・ユーザのニーズに応えるよう、一貫性のある、ひとつのエンティティとして設計 / 開発 / 検証されています。Sun Java Enterprise Systemのサブセットには以下が含まれます。

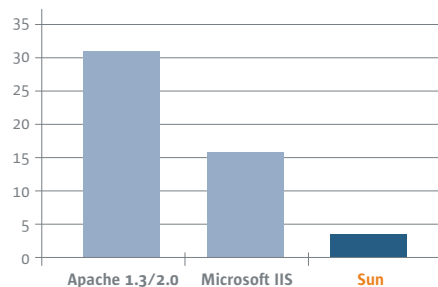
- Webサービス統合基盤を構築するためのコア・セットを提供
- 共通化されたテクノロジーと規格を実装
- 共通化された共有コンポーネントを実装
- 一貫性のあるユーザ環境
- 一貫性のあるソフトウェア・システム・アーキテクチャ
- サポートと保守

セキュリティの向上と、機密データの保護

実績を持ち、検証の取れたSun Java Enterprise Systemのコンポーネントである、Sun Java System Web Server / Sun Java System Directory Server / Sun Java System Access Managerを、企業のWeb / アプリケーション・サービス環境において、アーキテクチャ面での強化 / 認証機構 / 承認セキュリティ機能を提供できるよう、ゲートウェイとして組み合わせました。このゲートウェイの中核を成すのは、セキュアで優れたパフォーマンスのリバース・プロキシ・サーバとして機能し、到達したWebトラフィックのフィルタリングとディレクティングを行うSun Java System Web Serverです。CERT Coordination Centerによれば、先進のWebサーバとして、金融 / 航空 / 製薬 / バイオなど、堅牢なセキュリティ環境を必要とする業界から支持を受けているSun Java System Web Serverは、その脆弱性がApacheやMicrosoft IISに比べて80%も少ないとされています。

また、Sun Java System Web ServerはMicrosoft / IBM / BEA / SAP / Macromedia / オープンソースのWebサーバと比較した場合、Web / アプリケーション・サービスとのシームレスな連携が可能になるというメリットも兼ね備えています。

リバース・プロキシ・サーバとして機能するSun Java System Web Serverは、アクセス / 制御 / ログ機能の一元管理を可能にします。全てのWebトラフィックがリバース・プロキシ・サーバを経由するため、バックエンドの全てのWeb / アプリケーション・サーバにIPアドレス等によるアクセス制御の定義を、容易に設定することが可能になります。シングル・サインオンやフェデレーテッド・インダストリー・サービスに関する機能は、Sun Java System Access Managerが提供します。



他社のWebサーバ・ソフトウェアとの比較

出典: 2002-2003 CERT

Sun Java System Suitesによって、 ユーザはニーズに適した Sun Java Enterprise Systemの中の 特定の機能を利用することが可能になります。

また、このWebインフラストラクチャ・アーキテクチャは組織内のネットワーク・トポロジを隠蔽することができるため、新たな層を設けてハッカーによるアタックに対処することが可能になります。Sun Java System Web Serverはリクエストを単純にフォワードするのではなく、www.sun.com/webserver/と言うリクエストをwebserver.sun.comに割り当てるような、リクエストに対するコンテンツのマッピングを行います。これによってネットワーク・トポロジは外界から不可視となり、アタックを助長しかねない情報の提供を最小限に抑えることが可能になります。Webサーバのベンダー情報を削除可能なSun Java System Web Serverのヘッダ・マスキング機能によって、利用しているサーバ環境の詮

索や、安易なスクリプト・キディによるアタックの抑制も期待できます。また、企業のファイアウォールに守られ、分離環境に置かれたWeb / アプリケーション・サーバはDMZ上のSun Java System Web

Serverとのみ通信するため、既存のファイアウォール基盤が提供する機能を最大限に有効活用することができます。

ハッカーにとっては、Webサイトやアプリケーション・サーバが第一の攻撃目標ですが、機密情報を保持しているディレクトリ・サーバへのアタックも増加する傾向にあり、組織の内外を問わず、ディレクトリ・サーバの実装や運用に関しては様々なセキュリティ課題が浮上しています。

Sun Java System Directory Serverが、認証プロファイル / アクセス権限 / アプリケーション・リソース情報に関する、一元管理レポジトリを提供します。Sun Java System Directory ServerはSun Java System Web Serverとシームレスに連携し、MicrosoftのActive Directoryのパスワードの同期機能も統合されています。Sun Java System Directory Server Enterprise Editionが、悪意を持った行為からのディレクトリ・サーバの保護や、DoS (Denial of Service)アタックや不正なユー

ザのアクセスを防ぐフロントエンド・サーバとして機能する、ファイアウォールとしてプロキシ・サービスを追加します。

ロールをベースにしたアクセス

ディレクトリと認証管理機能が統合されたSun Java Web Infrastructure Suiteでは、顧客 / パートナー / 従業員に対し、シームレスにロール・ベースのアクセス制御を適用することが可能です。Webサイトにシングル・エントリするだけで、ユーザには個々の職務や職責 (ロール) / アクセス権限に応じて定義され、カスタマイズされたWebページが提供されます。

また、Sun Java System Access Managerはフェデレーションを使ったシングル・サインオン機能を提供することも可能です。Webベースのシングル・サインオンが認証 / 承認プロセスを簡素化し、アプリケーションやサービスのユーザビリティを向上します。パスワードの再設定や、パスワードを忘れた場合のリセット機能など、エンドユーザが管理することのできる機能を提供し、エンドユーザ自身の生産性やユーザビリティの向上も実現します。

コストの削減

Webサービス環境の実装と保守には多大な労力とコストを必要とします。アップデートやパッチの適用などの保守が必要なだけでなく、実装されるWebアプリケーションの増加と共に、ソフトウェアのライセンス費用も増大します。

Webサーバを企業の内部ネットワークに取り込むことによって、そのサーバ・アプリケーションに対するソフトウェア・パッチの適用作業を幾分かは遅らせることが可能かもしれませんが、だからと言って、日々のパッチ適用がまったく必要なくなるわけではありません。そのような環境においても、ワームやウイルスは保護されていないノートPCなど、他の経路から進入する可能性もあるため、アップデートやパッチの適用は必須です。

プロセスにおいてJava Webコンテナが統合されたSun Java System Web Serverでは、JavaServer Pages™ (JSP™) やJava Servletテクノロジーをベース

にしたアプリケーションを利用し、これらの保守作業に必要なコストを削減することが可能です。アプリケーションの負荷をSun Java System Web Serverに負担させることで、アプリケーション・サーバはデータ依存度の高いトランザクション処理だけに集中することができ、基盤全体を通して優れたROIを実現することが可能になります。

Webサービス・コンポーネントを統合し、コア・セットとして提供

Sun Java Web Infrastructure Suiteの全てのコンポーネントは予め統合され、検証が行われています。共通化され一貫性を持った規格 / テクノロジー / インタフェースによって、Sun Java Web Infrastructure Suiteの様々なコンポーネントのシームレスな導入 / 相互運用 / 同期も実現されます。プラットフォームのアーキテクチャ設計に組み込まれた生来のセキュアな環境と拡張性による恩恵を享受できると共に、開発 / 実装 / 管理に必要なコストの削減も可能になります。

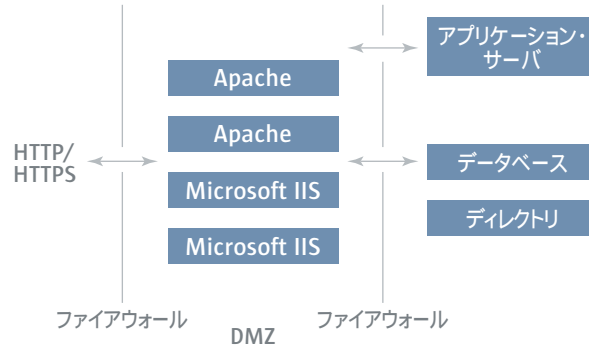
Sun Java Web Infrastructure Suiteのコンポーネント

Sun Java Web Infrastructure Suiteには、セキュアかつ迅速なWebサービスを構築 / 実装できる製品 / ツールが含まれています。このスイートには以下の、実績のあるSunのWebサービス・プラットフォーム製品が含まれています。

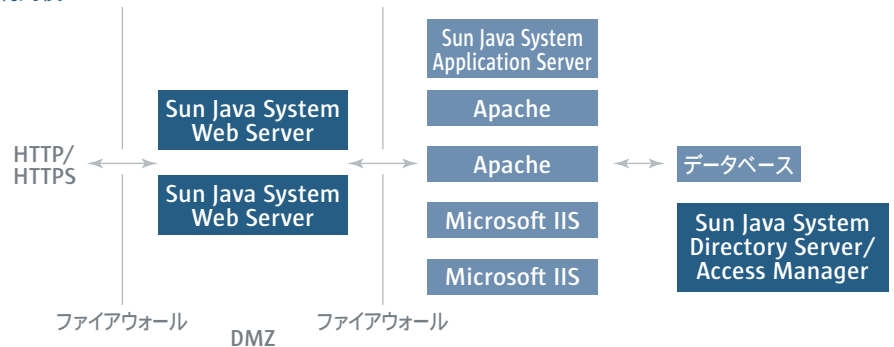
- Sun Java System Web Server
 - Sun Java System Web Proxy Server
 - Sun Java System Application Server Standard Edition
 - Sun Java System Directory Server Enterprise Edition
 - Sun Java System Access Manager
 - Sun Java Studio Creator
 - Sun Java Studio Enterprise
- 含まれるサービス:
- 1年間のS4 StandardもしくはPremium Support
 - Sun Java Studio Creatorに対するSDN Support

Sun Java™ Web Infrastructure Suite

利用前



利用後



今、すべてをシンプルに変える

Sunは、オープンで互換性のあるお求めやすいソフトウェア・システムを各種取り揃え、IT基盤の効率的な稼働を支援しています。各ソフトウェア製品はUNIX®とJavaをベースにシステムとして統合され、高いセキュリティと可用性、下位互換性を備えています。Sunのソフトウェア・ポートフォリオには、Solaris™(SPARC®版およびx86版)とLinux、ダイナミックなユーティリティ・コンピューティングに最適なN1™プラットフォーム、そしてSun Java Systemが

用意されています。

Sun Java Systemは、企業が必要とするソフトウェアの購入 / 開発 / 管理をこれまでになくシンプルにする画期的なアプローチで、豊富な実績と広範なソフトウェア・ポートフォリオを持ち、Sun以外には真似のできないユニークな戦略です。Sun Java Systemを利用すれば、ネットワーク・サービスや基幹ビジネス・アプリケーションを迅速に立ち上げ、コストも従来以上に軽減することが可能です。余裕をもってイノベーションや競争、売上増強に専念できます。

Sun Java™ Web Infrastructure Suite

プラットフォームおよび要件

OSおよびプラットフォーム

- Solaris 10 OS on SPARCおよび Solaris 10 OS on x86
- Solaris 9 OS on SPARCおよび Solaris 9 OS x86
- Solaris 8 OS on SPARC
- Red Hat Enterprise Linux AS 2.1および3
- 2005年リリースのHP-UXおよび Microsoft Windows

留意点: 必要 / 推奨されるパッチなど詳細なOS要件は、各製品ドキュメントに含まれています。

システム要件

- メモリとディスク容量: 要件は、インストールされるコンポーネントの構成によって変化します。詳細な最小要件および推奨要件に関しては、各コンポーネントの製品データシートを参照してください。
- Java 2 Platform, Standard Edition (J2SE™ プラットフォーム) 1.4.x

サポート言語

- 英語 / フランス語 / ドイツ語 / 韓国語 / 日本語 / スペイン語 / 簡体中国語 / 繁体中国語

Sun Java Enterprise Systemとそのコンポーネントは国際化規格に準拠した製品です。例外事項に関しては、Webサイトdocs.sun.comに用意されているコンポーネント製品のリリース・ノートに記載されています。

その他ソリューション

- Sun Java Enterprise System
- Sun Java Application Platform Suite
- Sun Java Identity Management Suite
- Sun Java Communication Suite
- Sun Java Availability Suite

詳細

Sun Java Enterprise System / Sun Java System Suites / Sun Java Web Infrastructure Suiteの詳細については、<http://jp.sun.com/products/software/javasystem/> をご覧ください。

Webサイト<http://www.sun.com/software/solaris/get.jsp>からSun Java Enterprise System / Sun Java System Suitesをダウンロードし、90日間無償でご評価いただくことも可能です。

サン・マイクロシステムズ株式会社

本 社	〒158-8633 東京都世田谷区用賀4-10-1	SBSタワー	電話(03)5717 5000(代)
山王オフィス	〒100-6160 東京都千代田区永田町2-11-1	山王パークタワー12F	電話(03)4232 2400(代)
中 部 支 社	〒460-0002 名古屋市中区丸の内2 14 4	エグゼ丸の内507	電話(052)203 1233(代)
大 阪 支 社	〒541-0052 大阪府中央区安土町1-8-15	野村不動産大阪ビル5F	電話(06)6265 5700(代)
九 州 支 社	〒814-0001 福岡市早良区百道浜2-1-22	福岡SRPセンタービル3F 308	電話(092)834 0101(代)
つくば営業所	〒305-0032 茨城県つくば市竹園1-6-1	つくば三井ビルディング11F	電話(0298)61 2210(代)
豊田営業所	〒471-0833 愛知県豊田市山之手5-73-1	山之手ビル7F	電話(0565)25 5700(代)
ホームページ	http://jp.sun.com/		

Sun Microsystems, Inc. 4150 Network Circle, Santa Clara, CA 95054 USA Phone 1-650-960-1300 or 1-800-555-9SUN Web sun.com

© 2006 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved. Sun, Sun Microsystems, サンのロゴマーク, Java, Java Coffee Cupのロゴマーク, Solaris, J2SE, N1, JavaServer Pages, JSPは、米国Sun Microsystems, Inc.の米国およびその他の国における商標または登録商標です。すべてのSPARC商標は、米国SPARC International, Inc.のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC商標がついた製品は、米国Sun Microsystems, Inc.が開発したアーキテクチャに基づくものです。UNIXは、X/Open Company Ltd.が独占的にライセンスしている米国およびその他の国における登録商標です。本文中に記載の各社の社名、製品名は、各社の商標または登録商標です。

資料の内容は、お断りなしに変更することもありますのでご了承ください。

